

研究タイトル：

中世前期貴族社会における詩壇の研究



氏名：	仁木 夏実／NIKI Natsumi	E-mail：	niki@akashi.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(文学)
所属学会・協会：	和漢比較文学会・中古文学会・中世文学会		
キーワード：	和漢比較文学、平安時代・鎌倉時代の日本文学、漢字文化圏		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none">・和漢比較文学について・漢字文化圏について		

研究内容： 中世前期貴族社会における詩壇の研究

概要

平安時代から鎌倉時代にかけての日本文学と中国文学との関わり、特に男性貴族達が中国文学に学び自ら作った漢詩や漢文について、その書かれた環境まで含めて研究しています。

内容

西洋の文化が奔流となって日本に流れ込んできた近代にいたるまで、日本の文化・文学は主に中国の文化・文学の強い影響下にありました。人々は中国で生まれた文字、漢字を学び、さらにそこから仮名を生み出して自国日本の文学を発達させていったのです。平安・鎌倉時代の日本文学には、その発達の生き生きとした様子を見ることが出来ます。

中国の書物は頻繁に日本に持ち込まれ、人々の教養となりました。平安時代の文学というと、「竹取物語」、「源氏物語」のような物語や、「百人一首」のような和歌など、仮名によって書かれたものを思い浮かべられると思いますが、それらにも中国文学の強い影響が見られます。

また、仮名文学が生まれた一方では日本人の手によって漢字による文学（漢文・漢詩）が作られ、愛好されていましたが、そのお手本とされたのも、もちろん、中国の漢文・漢詩でした。このような日本と中国の文学の関係を研究する（和漢比較文学研究）ことにより、世界の文学の中の、より豊かな日本文学の歴史が見えてくるのです。

特徴

中国の影響下に自国の文化・文学を進展させたという状況は、実は日本に限ったものではありません。朝鮮半島、台湾、沖縄、そして遠くはベトナムまで、中国周辺の諸国・諸地域はそれぞれ異なった事情を抱えつつも漢字をはじめとする中国の文化をあるときは受け入れ、あるときはそれに反発してきた歴史を持っています。

これらの諸国・諸地域を「漢字文化圏」というくくりでとらえ、それぞれ独自の発達を遂げながらも漢字・漢文を用いるという共通点を持つグループとして地域的にとらえようとする考えが最近唱えられるようになっています。そうすることにより、日本一国だけの狭い問題ではなく、広く世界文学の中で日本の文学を考える視点が養われるようになるのです。

活用

平安時代・鎌倉時代の日本文学について知りたい、また実際に読んでみたいという方に、御希望に沿って分かりやすくお教え致します。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	